
ぼくらの世界がここにある

彼也

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ぼくらの世界がここにある

【Zコード】

Z8294Y

【作者名】

彼也

【あらすじ】

空中都市に住む者にはナンバーコードが与えられ、階級を付けられる。平雑栄介はOランクであった13才の時、事件に巻き込まれ殺しをしてしまう。誰からも咎められることなく五年、Dランクまで上りつめた栄介は五年前の事件が都市の陰謀だったことを知る。ノーブログで冒頭部のみ書いたものの使い回しです。どれだけ続くかはわかりません。

ある夏の日、僕は人を殺しました。

ナンバー コード NO - 6328、平籠栄介ひらひなえいすけ、13才。

塾の帰り、夕暮れの駅前で起きた殺人未遂事件に僕は遭遇した。錯乱状態に陥った、サラリーマン風の30代くらいの男。通行人は彼から十分な距離を取つて平然と歩いていく。男の手に握られた包丁に気付いているはずなのに、誰も心配なんてしてなくて、誰も不安なんて覚えていないようだった。

都市に対する過信。

それは多くの人々に蔓延ひびきはるものだった。

「きやあああ！」

だから、寸前まで誰も気付けなかつた。

男が突然、その包丁を振り上げながら、走り出したことに。群衆の中へ飛び込んで行つたことに。

それは奇しくも、僕のすぐそばであった。だから僕にはそこからの場景がはつきりと見ることができた。

包丁を振り回す男から、人々はひたすらに逃げた。僕も周りに押され、男から離れていった。けれど男から目を離すことはしない。記憶しなければならない。そう思つた。

一人の女性が、男のすぐ目の前で転ぶ。すると男は、ぴたりと動きを止めた。ゆっくりと瞬きをして、そして体が揺らぐ。

包丁が、振り上げられた。

誰も、動かない？

僕はあたりを見回して、誰ひとり動こうとしていないことに気付いた。その時、何か重たいものが心臓に突き刺さるような感覚を覚え、息が苦しくなった。

振り下ろされる包丁。

気が付くと僕は動いていた。咄嗟に男に飛びついて、横倒しにする。それでも男の手から包丁は離れず、僕は無我夢中で包丁を奪おうとしたが子供の僕の力が大人に敵うはずがない。

そこで、大人しく引き下がれば良かつた？

自分が殺されるリスクを背負つて、諦めていればよかつたのだろうか。

けれど実際に僕が取った行動は、諦めることじやなかつた。
必死に、がむしゃらに。

僕は、男の首を絞めていた。

すると男は苦しそうに僕の手を強い力でひつかくが、これなら押さえこむことができた。

そうしてゐる内に女性は逃げ去り、周りの人も逃げていつた。なのに。

なのに僕は、いつまでたつても手をゆるめなかつた。

男は死んだ。

持つっていた包丁がからりと地を転がり、僕はようやくはつとしたが、遅かった。

手を離したとき、男の首には僕の手の跡　　僕の手には、男のひつかき傷がついていた。

男は息をしておらず、それはつまり、……僕が男を絞殺した、ということだ。

僕は底われた。

仕方ないことだと。人命を救つたんだ、よくやつたと。褒められすらした。

救つた？

僕は、人を殺したんだ。

この手で、一人の命を奪つたんだ。

その事実は延々と、永遠に、永久に悠久に僕に付きまとつ。

そして、それはやがて大きな変動をも僕にもたらすことになつた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8294y/>

ぼくらの世界がここにある

2011年11月24日19時52分発行